

在アゼルバイジャン日本大使館
2021年1月27日

アゼルバイジャンの鉱物資源

アゼルバイジャンは石油・ガス産出国として有名ですが、コーカサス山脈等の山間部における金、銀など鉱物資源も豊富です。日本との協力も含む今後の展望について、アゼルゴールド（金属・鉱物資源開発の公社）のイブラヒモフ総裁から話を伺いました。

「アゼルゴールドは現在 11 の鉱床を保有しており、中でも Filizchay 鉱床（バラカン県）は亜鉛、銅、鉛が豊かな、世界的にも有数の鉛鉱資源を有する多金属鉱床です（確認埋蔵量 6 千万トン、推定埋蔵量 1 億 2 千万トン）。この鉱床から 2025 年（生産開始予定）～2052 年の 27 年間で 100 億マナトの国庫歳入を見込んでおり、このような大規模プロジェクトでは海外企業との連携も視野に入れています。」

「また、昨年 9 月の大統領令により、当社は非鉄金属だけではなく、鉄鉱石の採掘も行うことが決定されました。これを受けて、ダシュケサン県の鉄鉱床の探鉱を開始します。」

「現在の生産はダシュケサン県の Chovdar 金鉱床で行われており、ここから産出される金の輸出は、アゼルバイジャンの石油・ガス分野以外の輸出の大半を占めます。昨年 11 月には Chovdar から 7km 離れた地点にある新鉱床（Agyokhush）の探鉱を開始しました。」

「先の紛争後の解放地域にある主要鉱床は、カルバジャル県、ラチン県、ザンギラン県、アグダラ市（タルタル県）に位置します。金鉱床として有名なのは Seyidli-Zod 鉱床（カルバジャル県、アルメニアとの国境）で、ソ連時代における推定埋蔵量は 120 トンでした。このほか、Demirli 銅鉱床（タルタル県）、Vejneli 金鉱床（ザンギラン県）、Mehmana 亜鉛・鉛鉱床（カルバジャル地区）があり、モリブデン、タングステンも産出します。本年 8 月までに解放地域の資源開発計画を政府へ提出し、海外企業との連携が可能となります。」

「探鉱から生産までの所要期間（5～7 年）を短縮するため、海外の最新技術・ノウハウが必要です。鉱区の共同所有も歓迎です。当社の事業に関心を持つ日本企業があれば、ぜひご連絡ください。」

（連絡先） Khayyam Farzaliyev, Deputy Chairman
メールアドレス: kh.farzaliyev@azergold.az

（以上）